

飲み込みの障害が疑われる患者様ならびにご家族の方へ

せっしょくえんげ < 摂食嚥下訓練および検査について >

「摂食嚥下障害」とは、食べ物や飲み物が上手に飲み込めなくなる障害です。脳卒中や神経・筋疾患、頭頸部腫瘍、加齢など、様々な原因で起こり、「脱水、栄養障害」「誤嚥、誤嚥性肺炎、窒息」などにつながる場合があります。よって摂食嚥下障害が疑われる患者様には、状況に応じて検査を受けていただくことが望まれます。さらにその結果に基づき、安全な栄養摂取方法の設定および必要な訓練の指導をおこないます。

◎ 検査について

【検査の種類】

嚥下内視鏡検査

【検査の目的】

摂食嚥下障害の有無とその程度を観察し、食事の可否やリハビリの検討をします。

【嚥下内視鏡検査とは】

鼻から内視鏡を通してのどを観察します。実際に食物を食べてもらい、口から、のど、食道へ食物がどのように通過するか、のどにどの程度残るかがよくわかります。

【検査に伴う合併症】

適切な食事を判断するために、やむをえず患者さんにとって難しい食事ならびに量を摂っていただくことがあり、検査中に誤嚥がおり得ます。まれに誤嚥による発熱、誤嚥性肺炎がおきることがあります。誤嚥がおきた場合は、直ちに吸引や適切な対応を行います。

検査は注意深くおこないますが、まれに以下の合併症が起こることがあります。

嚥下内視鏡検査の場合、検査の緊張や刺激により、失神発作が起こることがあります。内視鏡の通過により鼻やのどに傷がついて出血することがあります。また、のどの奥まで達した内視鏡により咽頭や声帯に傷害を生じることがあります。

合併症がおきた場合は、それぞれ適切な対応を行います。ただし、同意した後での撤回や検査途中で具合が悪くなったりした場合には、いつでも中止できます。

【 検査費用 】

2,000～3,000円 （健康保険1割負担の場合）

◎ 摂食嚥下訓練について

検査結果に応じて以下のような訓練を行うこともあります。

《間接訓練》 口から食べることが難しい時期に行います。のどのマッサージや舌や口唇の運動訓練などを行います。また口の衛生状態を良好に保つための口腔ケアを行います。

《直接訓練》 検査の結果、少しでも口から食べることが可能となれば、食物を使用した訓練を行います。検査結果に基づいて姿勢や食物の形を工夫しながら実際に食物を摂取します。訓練は慎重に行いますが、少なからず誤嚥のリスクを伴います。発熱を生じた場合や痰が増加した場合は直接訓練を中止する場合があります。

《 嚥下内視鏡検査 》

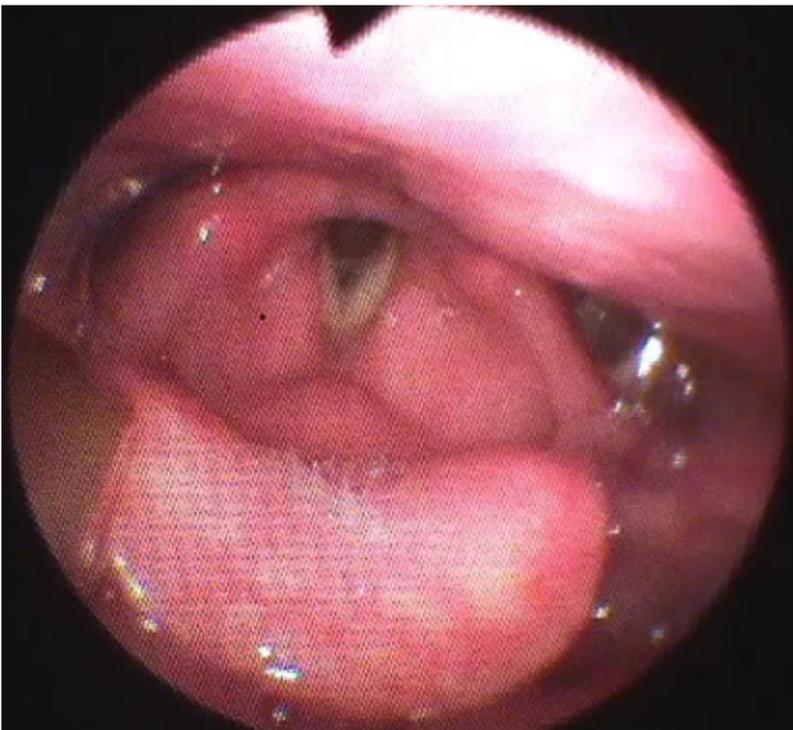


内視鏡カメラ

先の細いカメラを使用します。



お鼻から内視鏡カメラを挿入し、喉の奥の動きや飲み込みの様子をみていきます。



喉の奥の様子

痰のたまり具合や、飲み物・食べ物などが気管に入っていないかなどを確認します。